

創立143周年



学校だより

は え

南風の子

中種子町立
南界小学校

平成29年3月10日(金)発行

支えてくれた変わらぬ笑顔

今月23日は第70回の卒業式です。入学以来ずっと3人で頑張ってきた子供たちが卒業します。学年が上がるほどに求められる役割も増えました。たとえ、得意なことでもやらねばならない立場になりました。3人でよく相談し、協力して役割を果たしてきた姿は、下級生の良いお手本になりました。在校生も24日には修了式を迎えます。「かしこさ」と「やさしさ」「たくましさ」のそれぞれを伸ばしてきた1年でしたが、改めてこの1年を振り返り、自分の成長の跡とこれからの目標について確かめてほしいと思います。

保護者、地域の皆様には、本年度も本校の教育活動の推進に御理解と御協力をいただき、本当にありがとうございました。子どもたちは、自分に向けられる変わらぬ笑顔と声かけから、自分を肯定的に受け止める気持ちを持てるのだろうと思います。南界の子供たちが、これからもっともっと伸びていきますよう、今後ともよろしくお願いいたします。

校長 岡 留 祐 宏



牧瀬守さん提供のもみ殻で、燻炭作り&焼き芋です。ありがとうございました！

心を育て 言葉を増やし 考えを深める

1年生の提恭介さんの「せつぶん」の詩です。
(2月9日付南日本新聞「子供のうた」に掲載)

きょうはせつぶんです だからまめまきをしました 「おにはそと ふくはうち」とげんきよく なげました
ぼくは ねぼうおにをたいじしました あしたのあさはだいじょうぶ

「変えたい思い、やれるかもしれないという自分への期待感」が伝わってくるようです。

今年も南日本新聞の「子供のうた」や「若い目」に、これまで8名の子供たちが掲載されました。感動作文コンクール優秀賞や県作文入選もありました。さらには、5年生の四元志保さんの作文「新しいしょうちゅう」が、MBCラジオ「私たちの作文」の県知事賞を受賞しました。この1年間に放送された全作品から選ばれたものです。3月12日の表彰式で朗読することになっています。

※表彰式の様子や学校での学習の様子が、12日のMBCニューズナウで放送予定です。

どの作品も、経験・想像・関心事をもとに、自分が感じたことや考えたことが書かれています。そこには、「これまでの自分を振り返る心」や「目線を上げて今後の自分を考える心」がうかがえます。自分を見つめる目は、自分と家族や友達などの集団との関係を考える目となり、さらには、地域社会やもっと広い世界と自分との関わり方を考える目となっていくのだと思います。心を育て、言葉を増やし、考えを深めていく取組の一つとして、詩や作文を生かしたいと思います。



進路選択の決意 その後の生き方

3月1日は種子島中央高等学校の第7回卒業式でした。南界小学校を平成22年度に卒業した皆さんの門出です。その皆さんの小学校時代を直接は知りませんが、この3年間に、地域の行事などで活躍する姿を見せてくださった皆さんです。今後の人生に幸多かれと思います。

「進路実現は簡単なことではありません。だからこそ、日々、努力していた先輩たちの姿が心に残っています。」在校生の送辞の一節です。高校卒業後の進路選択は、その先の道が現実味を帯びて見えてくる選択だろうと思います。就職であれ、進学であれ、自分の望む道をいよいよ選ぶ決意を迫られ、実現のための努力を求められただろうと思います。

祝辞を述べられた久保田PTA会長さんの「技術を磨き、心を磨く。それがプロだと思います。」という言葉や、保護者代表挨拶の「社会情勢をよく見て、自分でしっかり考え、判断できる人になってほしい。」という言葉は、進路選択のその先にある「選んだ道をどのように進むのか」という生き方を示唆する「人生の先輩としての言葉」だと感じました。

本校の子供たちも5年先、10年先には直面する高校卒業です。しかし、今はまず、小学生の時期にやらねばならないことにしっかり取り組ませる。これを大事にしたいと思います。